

劇団☆新感線 いのうえ歌舞伎

# どくろ城の七人

どくろじょうのしちにん



【作】中島かずき 【演出】いのうえひでのり

【出演】小栗 旬 森山未来 / 早乙女太一

小池栄子 勝地 涼 仲 里依紗 / 高田聖子 栗根まこと 河野まさと / 千葉哲也

【大阪公演】2011年8月7日(日)～24日(水) 梅田芸術劇場メインホール

【東京公演】2011年9月5日(月)～10月10日(月祝) 青山劇場

【公式サイト】<http://www.dokuro2011.com>

【企画製作】ヴィレッヂ 劇団☆新感線

## 「人よんで『ワカドクロ』いざ参る！」

平素は、劇団☆新感線に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、『髑髏城の七人』です。1990年の初演以来4回目の上演になります。

前回は7年前、『アカドクロ』『アオドクロ』と称して2本立てで、ドドーンとお送りいたしました。私たちもさすがにそれで終わりかなと考えておりました。作家の中島も演出のいのうえも、「この作品でやるべきことはやった。」と口を揃えていました。私も同じ思いでした。

そんなある日、ある劇場で、小栗くん主演のあるお芝居を観た私は、あることを思いついてしまいました。

「小栗くんの捨之介が見たい！」

そして、この企画が動き始めました。

作家の中島は、一人二役だった捨之介と天魔王を二人にしたいと言い出し、演出のいのうえは、とにかく若い俳優たちとこの作品に取り組みたいと言い出し、結果はご覧の通り。素晴らしいキャストの皆さんにお集まりいただきました。

この夏、最大の話作にして最高のエンターテインメントになることは間違いないと確信しております。前回からの流れでネーミングするならば、通称『ワカドクロ』といったところでしょうか。

そして、「東日本大震災」の記憶も生々しく再生への道のりは遠い今、私たちにできることは何か。それは、演劇を通して、この傷つき立ち上がろうとしている社会と連帯していくことだと考えます。「微力ではあるが、無力ではない」ことを信じて。

いざ、それならば、暫定的に最後の『髑髏城の七人』！参る！

よろしく願い申し上げます。

エグゼクティブプロデューサー 細川展裕

## What's 髑髏城の七人

“いのうえ歌舞伎”とは

神話や史実などをモチーフとし、ケレン味を効かせた時代活劇のシリーズ。近年では、その持ち味に加えドラマ性に重きをおき、人間の業を浮き彫りにした作品作りへ転化している。

1990年に池袋西口公園テントで産声を上げた「髑髏城の七人」は、以来7年ごと（たまたまですが…）に上演される度にブラッシュアップされ、今では劇団最高傑作と言われる名作です。特に97年版は、物語・演技・殺陣・音楽など全ての面が完璧に調和し、“いのうえ歌舞伎”の原点となりました。そして2004年には“ドクロイヤー”と銘打ち、同じ作品を全く別のキャストで、更に演出を変えて春と秋に連続上演するという大胆な試みを決行。ドラマ性の強い『アカドクロ』、ケレン味の強い『アオドクロ』と見事に趣向を変えた作品はいずれも大成功を収め、一旦は作品として完結を迎えました。

しかし初演から21年目となる今年、若いキャストが結集することによって新たな着想を得て、又しても偶然7年ぶりに「髑髏城の七人」が甦ります。

## History of 髑髏城の七人

### ❧初演 1990年11月～1991年2月

東京：池袋西口公園テント 11/16～18

大阪：近鉄劇場 12/29・30

東京：シアターアプル 2/9～11

捨之介・天魔王	古田新太
沙霧	高田聖子
蘭兵衛	鳳ルミ
兵庫	橋本じゅん
極楽太夫	羽野晶紀
裏切り渡京	粟根まこと
大吉	橋本さとし
贗鉄斎	逆木圭一郎
獣田素振之介	いのうえひでのり
狸穴二郎衛門	竹田団吾

### ❧アカドクロ 2004年4月～6月

滋賀：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール大ホール 4/17・18

東京：新国立劇場中劇場 4/29～5/8

大阪：大阪厚生年金会館大ホール 5/18～24

東京：東京厚生年金会館大ホール 5/31～6/6

捨之介・天魔王	古田新太
沙霧	佐藤仁美
蘭兵衛	水野美紀
兵庫	橋本じゅん
極楽太夫	坂井真紀
裏切り三五	河野まさと
磯平	磯野慎吾
贗鉄斎	梶原善
邪鬼丸	山本亨
狸穴二郎衛門	佐藤正宏

### ❧再演 1997年9月～11月

大阪：中座 9/25～28

愛知：愛知厚生年金会館 9/30～10/1

東京：サンシャイン劇場 10/8～21

福岡：大野城まどかぴあ 11/2

捨之介・天魔王	古田新太
沙霧	芳本美代子
蘭兵衛	粟根まこと
兵庫	橋本じゅん
極楽太夫	高田聖子
裏切り三五	河野まさと
磯平	磯野慎吾
贗鉄斎	逆木圭一郎
鬼楽因果丸	右近健一
狸穴二郎衛門	こぐれ修

### ❧アオドクロ 2004年10月

東京：日生劇場 10/6～28

捨之介・天魔王	市川染五郎
沙霧	鈴木杏
蘭兵衛	池内博之
こぶしの忠馬	佐藤アツヒロ
極楽太夫	高田聖子
裏切り渡京	粟根まこと
仁平	村木仁
カンテツ	三宅弘城
鬼龍丸	高杉亘
狸穴二郎衛門	ラサール石井

## about 髑髏城の七人 2011

### 若い息吹によって生まれる、新たな七人の物語

2004年、過去2回の上演を受けての集大成ともいえる「アカドクロ」「アオドクロ」を上演し、作品は完結を迎え、再び上演されることはないと思われていた「髑髏城の七人」。

しかしそれから7年の月日を経て、若いキャストを迎え、更にこれまで一人二役で演じられてきた主人公の捨之介と天魔王をそれぞれの役に分けて上演する、という発想から再び動き始めました。

主演は、捨之介に小栗旬、天魔王に森山未來という人気・実力ともにトップクラスの二人の夢の顔合わせが実現。そして、大衆演劇界きっての名手・早乙女太一、バラエティはもとより女優としても高い評価を得ている小池栄子、シリアスからコメディまで硬軟演じ分ける実力派・勝地涼、ドラマ・映画に引っ張りだこの仲里依紗と、日本の演劇・映画・ドラマ界を牽引する若き演技者たちが一堂に会します。更にドラマに厚みを持たせる重厚な演技で強烈な存在感を放つ千葉哲也、もちろん劇団☆新感線の高田聖子、粟根まこと、河野まさなどお馴染みのメンバーも出演いたします。

この上なく豪華で奇跡のようなキャスティングが実現し、新生「髑髏城の七人」が2011年夏、甦ります。

### なぜ捨之介と天魔王は一人二役なのか蛇足な補足

1989年の舞台「仮名絵本西遊記」上演中のこと、看板俳優・古田新太が舞台上で犯したミス罰ゲームとして「古田に煙草を吸わせる暇を与えない芝居を」という発想から「それなら一人二役やらせよう」ということになったらしい。

## story of 髑髏城の七人 2011

織田信長が本能寺で討たれて8年、天下は豊臣秀吉の手に握られようとしていた頃の関東。

天魔王（森山未來）率いる関東髑髏党は、秀吉を倒し関東制覇を企み殺戮を繰り返していた。

ある日、兵庫（勝地涼）率いる三五（河野まさと）ら関八州荒武者隊は、髑髏党に襲われている村を通りかかる。兵庫たちは村人を助け応戦するも逆に窮地に追い込まれてしまう。そこへ捨之介（小栗旬）と名乗る若者が現れ、一騎当千に髑髏党を叩きのめす。村の生き残った娘たちを連れて兵庫と捨之介が向かった先は、噂に名高い極楽太夫（小池栄子）がいるという関東一の色里、無界屋蘭兵衛（早乙女太一）が取り仕切る“無界”の里だった。無界の里は宿場も兼ねた色里、旅人や商人など氏素性の様々な人たちが出入りする。偶然か必然か、諸国流浪のやせ牢人を名乗る狸穴二郎衛門（千葉哲也）という男も時を同じくして里を訪れていた。

ある晩、里で素性を偽って働いていた沙霧（仲里依紗）が髑髏党に襲われ、その場を助けた蘭兵衛は居合わせた捨之介を見て驚く。二人には何か因縁がある様子だ。そこへ突然、天部の将監（粟根まこと）とともに天魔王が現れ、捨之介、蘭兵衛たちの過去が明らかになり、二人を髑髏党に招き入れようとする。拒む蘭兵衛と捨之介は、無界の里を守る為、天魔王を倒すことを決意する兵庫や極楽太夫らと共に、天魔王と対峙することに……。そして、捨之介は強力な刀を手に入れるため自身の過去を知る刀鍛冶・贗鉄斎（高田聖子）を尋ねるのだった。

## History of 劇団☆新感線

- 1980年11月 大阪芸術大学舞台芸術学科の四回生を中心にしたメンバー（こぐれ修、いのうえひでのり等）で、つかこうへい作品『熱海殺人事件』にて旗揚げ。劇団名は、当時のメンバーが実家に帰省する際、新幹線を使っていたというだけのいい加減な理由。以降、つか作品を次々に上演し、つかこうへいのコピー劇団として人気爆発、関西学生演劇ブームの中心的存在に。
- 1984年6月 『つかこうへいサヨナラ3本立』と銘打ち、つか作品と決別。
- 同年11月 『宇宙防衛軍ヒデマロ』より、ハードロック・ヘヴィメタルにのせ笑いや歌やダンスを盛り込んだオリジナル作品の上演を開始。
- 1985年4月 『炎のハイパーステップ』より中島かずきが参加。以降、座付作家として劇団の代表作を書き下ろす。
- 1986年2月 『星の忍者-THE STRANGE STAR CHILD-』にて“いのうえ歌舞伎”と銘打つ作品初演。
- 1988年2月 『星の忍者一風雲乱世篇一』(\*1)にて東京進出。
- 1990年11月 『髑髏城の七人』(\*1) 初演
- 1997年9月 『髑髏城の七人』(\*1) 再演
- 1999年1月 劇団の本公演以外に大手プロダクションと組んだ公演を手掛けるようになる。第一弾はホリプロと『西遊記～PSY U CHIC～』(\*1)を上演。
- 2000年8月 『阿修羅城の瞳』(\*1)にて松竹と組み、新橋演舞場と大阪松竹座に進出。
- 2002年8月 『アテルイ』(\*1)を同じく松竹と。作品賞として朝日舞台芸術賞・秋元松代賞を受賞。  
中島かずきはこの作品で岸田國士戯曲賞を受賞。
- 2004年 “ドクロイヤー”と称し、4月と11月に同タイトル・同作家・同演出家にて、キャストと演出を替えて『髑髏城の七人』(\*1)を連続上演するという演劇界で類を見ない画期的な試みを決行。
- 同年12月 『SHIROH』(\*1)で本格的なオリジナル・ロック・ミュージカルに挑戦。東宝と組み帝国劇場に進出。これらの活躍に対し、いのうえひでのりは04年度の日本演劇協会賞を受賞。
- 2005年9月 初めて既存の小説を原作にした『吉原御免状』を“いのうえ歌舞伎”として上演。この作品以降いのうえ演出はより人間ドラマを重視する方向へと向かい、“いのうえ歌舞伎”は<第二章>ともいうべき段階へ。
- 2006年5月 宮藤官九郎を脚色に迎えシェイクスピア作品に初挑戦。四大悲劇のひとつ『マクベス』をヘヴィメタルテイストに大胆にアレンジした『メタル マクベス』(\*2)を上演。  
いのうえひでのりはこの作品で芸術選奨文部科学大臣新人賞と千田是也賞を受賞。
- 2008年7月 『五右衛門ロック』(\*2)を同年末に閉館する娯楽の殿堂・新宿コマ劇場にて上演。いかにも“新感線らしい”派手なお祭り舞台として幅広い観客層から熱い支持を得てエポック的な作品となった。
- 2010年 劇団結成30周年を迎え、3月に映像を使ったダイナミックな演出と生バンドの演奏による音楽劇『薔薇とサムライ～GoemonRock OverDrive』(\*2)、10月に劇団の原点回帰ともいえる体力勝負のドタバタおバカ炸裂の“ネタもの”『鋼鉄番長』(\*3)を上演。

### ★劇団☆新感線作品のシリーズ紹介

#### 【いのうえ歌舞伎シリーズ】(\*1)

神話や史実などをモチーフとし、ケレン味を効かせた時代活劇のシリーズ。近年では、その持ち味に加えドラマに重きをおき、人間の業を浮き彫りにした作品作りへ転化している。

#### 【新感線Rシリーズ】(\*2)

劇中、オリジナルのROCKの楽曲が生バンドで演奏され、歌楽曲が多数あるシリーズ。

#### 【ネタものシリーズ】(\*3)

主にいのうえひでのりが書きおろす、ネタを中心とし、お笑いを追求したシリーズ。

## STAFF



**演出** いのうえひでのり

1960年1月24日生まれ 福岡県出身

80年劇団☆新感線を旗揚げ。以来、劇画・マンガ的な世界観にあたかもコンサート会場に来ているような派手な照明と音響を用いた構成で、演劇ファンのみならず音楽ファンをも虜にしてきた。笑いに特化した活劇の“ネタもの”では脚本も手がける。時代活劇の“いのうえ歌舞伎”ではアクションとケレン味を効かせた演出に、ドラマのうねりをのせた独特の手法で、小劇場の枠を超えた新しいエンターテインメントの形として“新感線”というジャンルを確立させた。劇団の本公演以外では「断食」(11)、「怪談 牡丹燈籠」(09)、「TOMMY」(07)、初めて本格的にシェイクスピア作品に取り組んだ「リチャード三世」(08-09)等プロデュース公演の演出も多数手がけている。

【受賞歴】 第14回日本演劇協会賞(『髑髏城の七人』『SHIROH』の演出において)  
第9回千田是也賞(『メタル マクベス』の演出において)  
第57回芸術選奨文部科学大臣新人賞



**作** 中島かずき(なかしま・かずき)

1959年8月19日生まれ 福岡県出身

『炎のハイパーステップ』(85)より座付き作家として劇団☆新感線に参加。座長いのうえひでのりとは高校演劇を通して知り合う。『スサノオ』『髑髏城の七人』『阿修羅城の瞳』など歴史や神話をモチーフに物語性を重視し、複雑に絡み合う伏線を多用した脚本は、疾走感とグルーブ感あふれる演出とあいまって劇団の代表作となっている。また、「ジャンヌ・ダルク」(10)、「戯伝写楽」(09)、「レディ・ゾロ」「OINARI -浅草ギンコ物語-」(03)等の外部への書き下ろし作品も多数。演劇以外にも映画やテレビの脚本、コミック原作、テレビアニメ『天元突破 グレンラガン』(TX・07)の脚本・シリーズ構成やアニメ版『のだめカンタービレ フィナーレ』(CX・10)のシリーズ構成ほか、小説版『髑髏城の七人』を書き下ろすなど活躍の場は広い。

【受賞歴】 第47回岸田國土戯曲賞(『アテルイ』)

## CAST



### 小栗 旬 (おぐり・しゅん)

1982年12月26日生まれ 東京都出身

「GTO」(CX・98)にて連ドラ初レギュラー出演。その後ドラマ・映画・舞台と話題作に多数出演。07年にはドラマ、映画で大ヒット作品に立て続けに出演し、08年のエランドール賞新人賞、ゴールデンアロー賞放送賞、日本映画批評家大賞主演男優賞、橋田賞新人賞など数多くの賞を受賞し、俳優として人気・実力ともに確固たる地位を確立。10年には「シュアリー・サムデイ」で映画監督デビューを果たし、表現者として新たな一面を魅せた。近年の主な出演作に、映画「岳-ガク-」(11.5.7 公開)、「踊る大捜査線 THE MOVIE3」(10)、「TAJOMARU」(09)、「クローズ ZERO II」(09)、ドラマ「獣医ドリトル」(TBS・10)、「帰國」(TBS・10)、「わが家の歴史」(CX・10)、「東京 DOGS」(CX・09)、「天地人」(NHK・09)、舞台「時計じかけのオレンジ」(11)、「ムサシ」(09)、「カリギュラ」「お気に召すまま」(07)などがある。劇団☆新感線には本作が初参加となる。



### 森山 未来 (もりやま・みらい)

1984年8月20日生まれ 兵庫県出身

5歳からダンスをはじめ、ジャズダンス、タップダンス、クラシックバレエ、ヒップホップなどを学び、99年にミュージカル「BOYS TIME」でデビュー。以降、舞台・ドラマに数多く出演し、04年に大ヒット映画「世界の中心で、愛をさけぶ」でブルーリボン賞・新人賞、日本アカデミー賞助演男優賞と新人俳優賞を受賞し話題に。また、自身が主演するダンスライブの演出も自ら手がけるなど、俳優業だけでなくクリエイターとしても活躍するなど、ジャンルを超えて活動する数少ない若手実力派俳優である。近年の主な出演作に、映画「フィッシュストーリー」(09)、「その街のこども 劇場版」(10)、「リミット-刑事の現場 2-」(NHK・09)、ドラマ「モテキ」(TX・10)、舞台「キャバレー」(07)、「RENT」「ネジと紙幣」(08)、メカロックオペラ「R2C2」(09)、舞台「タンゴ-TANGO-」「変身」(10)などがある。今後の公開待機作に、映画「モテキ 劇場版」(9月全国東宝系)、「セイジ 陸の魚-」「ALWAYS 三丁目の夕日'64」(12年公開予定)がある。劇団☆新感線には「メタル マクベス」(06)、「五右衛門ロック」(08)に続き本作が3度目の出演となる。

<<< 開催告知・取材に関するお問い合わせ >>>

ディップス・プラネット tel: 03-5211-7656 fax: 03-5211-7656 mail: pr@dipps.co.jp

## CAST



### 小池栄子 (こいけ・えいこ)

1980年11月20日生まれ 東京都出身

98年に「美少女H」(CX)でドラマデビュー。以降、舞台・ドラマ・映画と数多くの作品に出演し、主演映画「接吻」(08)では観客を圧倒する高い演技力が評価され、ヨコハマ映画祭、毎日映画コンクール、高崎映画祭、日本映画批評家大賞で主演女優賞を受賞した。近年の主な出演作に映画「八日目の蟬」(11)、「乱暴と待機」「パーマネント野ばら」「人間失格」(10)、「わたし出すわ」(09)、ドラマ「熱中時代」(NTV・11)、「GM～踊れドクター」(TBS・10)、「宿命 1969-2010 -ワンス・アポン・ア・タイム・イン・東京-」(EX・10)、「キイナ 不可能犯罪捜査官」(NTV・09)、「瞳」(NHK・08)、舞台「ペテン・ザ・ペテン」(11)、「甘え」(10)、「バンデラスと憂鬱な珈琲」(09)、「シャープさんフラットさん」(08)などがある。劇団☆新感線には本作が初参加となる。



### 勝地 涼 (かつち・りょう)

1986年8月20日生まれ 東京都出身

00年に俳優デビュー。以降映画・TVドラマ・声優・舞台と多方面にわたって活躍。06年には「亡国のイージス」(05)の出演において日本アカデミー賞新人賞を受賞し注目を集める。シリアスからコメディまで幅広い役を演じることができる実力派若手俳優である。近年の主な出演作に、映画「小川の辺」(11.7.2公開)、「阪急電車」(11)、「シュアリー・サムデイ」(10)、「少年メリケンサック」(09)、ドラマ「リバウンド」(NTV・11)、「さよなら、アルマ」(NHK・10)、「美丘」(NTV・10)、「篤姫」(NHK・08)、舞台「ムサシ」ロンドン・NYバージョン(10)、「カリギュラ」(07)、「父帰る/屋上の狂人」(06)などがある。劇団☆新感線には「犬顔家の一族の陰謀」(07)、「蜉蝣峠」(09)に続き本作が3作目の出演となる。



### 仲 里依紗 (なか・りいさ)

1989年10月18日生まれ 長崎県出身

主なドラマ出演作に、「ハチワンダイバー」(CX・08)、「任侠ヘルパー」(CX・09)、TBS「ヤンキー君とメガネちゃん」(TBS・10)、「日本人の知らない日本語」(YTV・10)、BeeTV「パーティーは終わった」(11)など。映画では06年劇場版アニメ「時をかける少女」のヒロインの声を務め、高い評価を受け話題に。その他「純喫茶磯辺」(08)、「パンドラの匣」(09)、「時をかける少女」(10)、「ゼブラマン～ゼブラシティの逆襲～」(10)などがある。第23回日刊スポーツ映画大賞新人賞、第34回日本アカデミー賞新人俳優賞、第25回高崎映画祭最優秀主演女優賞受賞。現在、フジテレビ4月クール連続ドラマ「幸せになろうよ」に出演中。最新主演映画「ハラがコレなんで」が今秋公開予定。劇団☆新感線には初参加、本作が本格的な舞台デビューとなる。

<<< 開催告知・取材に関するお問い合わせ >>>

ディップス・ブラネット tel: 03-5211-7655 fax: 03-5211-7656 mail: pr@dipps.co.jp



## CAST



**高田聖子 (たかだ・しょうこ)**

**1967年7月28日生まれ 奈良県出身**

大学在学中にスカウトされ87年「阿修羅城の瞳」より劇団☆新感線に参加し、現在に至るまで看板女優として活躍。ほか、自身で座長を務めるプロデュース集団「月影十番勝負」・「月影番外地」の公演も定期的に行っている。劇団公演以外の主な舞台作品に「ぼっちゃん」「南へ」(11)、「スプリングビー」(09)、「舞台は夢」(08)、「キル」(07-08)、「回転する夜」(07)など。舞台以外にもヒロインの姉役で強烈な存在感を見せお茶の間で人気を博したドラマ「やんちゃくれ」(NHK・98-99)や、「不毛地帯」(CX・09)、「火の魚」(NHK・09)、「ホームレス中学生」(CX・08・09)、「芋たこなんきん」(NHK・06-07)、映画「酔いがさめたら、うちに帰ろう。」(10)など映像でも活躍している。



**粟根まこと (あわね・まこと)**

**1964年8月7日生まれ 大阪府出身**

85年「ヒデマロ2」より劇団☆新感線に参加。マッドな博士から薄幸の美男子まで幅広く担当し、現在の劇団の中樞を担う存在。リズムカルで軽妙な動きと独特な声を武器にコメディからミュージカルまでこなす芸達者ぶりは評価が高い。劇団公演以外にも、舞台「僕を愛ちて。～燃える湿原と音楽～」(11)、「罪と、罪なき罪」(10、08)、「斉藤幸子」(09)、「冬の絵空」(08-09)、「昭和島ウォーカー」(08)、ドラマ「猿ロック」(NTV・09)、「トンスラ」(NTV・08)、「功名が辻」(NHK・06)、「新選組!」(NHK・04)、映画「これでいいのだ!!映画★赤塚不二夫」(11)、「インスタント沼」(09)、「隠し砦の三悪人」(08)など様々な作品に出演。また、人物の観察力が鋭く、イラストも得意なことから雑誌のコラムなどでもその芸達者ぶりを発揮している。



**河野まさと (こうの・まさと)**

**1968年2月19日生まれ 愛媛県出身**

88年「ヒデマロ3」より劇団☆新感線に参加。元気ハツラツのさわやかな雰囲気、白い歯に引き締まったいい体。にもかかわらず情けない役や、腹黒キャラを演じる事が多く定着している。劇団公演以外にも「電車は血で走る」(6/18 東京芸術劇場)、「リチャード三世」(08)、「夏光線」(07)、「2学期の嵐」(06)、「レディ・ゾロ」(03)、ドラマ「MM9」(11)、「猿ロック」(NTV・09)、「新マチベン～オトナの番～」(NHK・07)などに出演している。

## CAST



早乙女太一（さおとめ・たいち）

1991年9月24日生まれ 福岡県出身

大衆演劇「劇団 朱雀」二代目として全国の舞台を踏む一方で、2003年に北野武監督の映画「座頭市」に出演したことをきっかけに「100年に1人の天才女形」として一躍脚光を浴び人気を博す。以降、テレビ、また劇団外の舞台出演など活躍の幅を広げている。2008年2月、16歳で新歌舞伎座史上最年少記録の初座長を務めた事を皮切りに東京、名古屋、大阪の大劇場にて座長公演を続けるほか、宮本亜門演出の「祝祭音楽劇 トゥーランドット」(08)、新選組炎舞録「薄桜鬼」(10)土方歳三役で出演するなど話題作への参加多数。劇団☆新感線には「蛮幽鬼」(09)に続き2作目の出演となる。



千葉哲也（ちば・てつや）

1963年10月27日生まれ 神奈川県出身

87年、演劇企画集団ガジラ旗揚げより参加。舞台を中心に映画、テレビ、外部劇団のプロデュース公演に出演等幅広く活動している。06年度に自身の演出作「スラブ・ボーイズ」、08年度に「広い世界のほとりに」の2作品で読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。近年の主な作品に、映画「山桜」(08)、「零」(04)、「宇宙の夏」(02)、「写楽」(95)、ドラマ「古畑任三郎」(CX・06)、「国盗り物語」(TX・05)、「御宿かわせみ 第二章」(NHK・04)、「武蔵」(NHK・03)、「坂の上の雲」(NHK)、舞台「さよなら溪谷」「凡骨タウン」(10)、「BLUE/ORANGE」(10・兼演出)、「怪談 牡丹燈籠」「ユーリントウン」(09)、「焼肉ドラゴン」「人形の家」(08)、「ヘル」(07)、演出作に「K2」「桜の園」「アット・ホーム・アット・ザ・ズー」「キレイじゃなきゃいけないワケ」(10)などがある。劇団☆新感線には「IZO」(08)、「蛮幽鬼」(09)に続き3作目の出演となる。

## Outline

公演名称 **いのうえ歌舞伎「髑髏城の七人」**  
作 **中島かずき**  
演出 **いのうえひでのり**  
出演 **小栗 旬 森山未来 / 早乙女太一 /  
小池栄子 勝地 涼 仲 里依紗 /高田聖子 粟根まこと 河野まさと /  
千葉哲也**

右近健一 逆木圭一郎 村木よし子 インディ高橋 山本カナコ 磯野慎吾 吉田メタル  
中谷さとみ 保坂エマ / 村木 仁 川原正嗣、前田悟  
岩崎祐也 友部康志 仲圭太 橋爪遼 浜田麻希 平田小百合 松永晃幸 三浦 力 八木のぞみ/  
武田浩二 藤家剛 加藤学 川島弘之 井上象策 安田桃太郎 伊藤教人 菊地雄人

企画製作 **ヴィレッヂ 劇団☆新感線**  
公式サイト <http://www.dokuro2011.com>

### 【大阪公演】

公演日程 **2011年8月7日(日)～24日(水)**  
会場 **梅田芸術劇場メインホール**  
チケット発売日 **2011年6月26日(日)10:00am**  
チケット料金 **S席¥13,500/A席¥10,500/B席¥7,500(全席指定・税込)**  
公演スケジュール【全23回公演】

8月	7日	8月	9火	10水	11木	12金	13土	14日	15月	16火	17水	18木	19金	20土	21日	22月	23火	24水
12:30		☠	休	☠		☠	☠	☠	休	☠	☠	☠		☠	☠	休	☠	☠
18:00	☠	☠	演	☠	☠	☠		☠	演	☠		☠	☠	☠		演	☠	

プレイガイド チケットぴあ <http://pia.jp/t/dokuro2011/> [パソコン・携帯]  
【6/26のみ】0570-02-9530  
【6/27以降】0570-02-9999/0570-02-9999[Pコード:412-349]  
ローソンチケット <http://l-tike.com/dokuro2011/> [パソコン・携帯]  
【6/26のみ】0570-08-4658  
【6/27以降】0570-00-0407/0570-08-4005[Lコード:57504]  
CNプレイガイド <http://www.cnplayguide.com/dokuro2011/> [パソコン・携帯]  
【6/26のみ】0570-03-9944  
【6/27以降】0570-08-9999  
e+ (イープラス) <http://eplus.jp/dokuro2011/> [パソコン・携帯]  
【6/26のみ】0570-06-9900  
阪神プレイガイド 窓口販売のみ  
お問合せ キョードーインフォメーション 06-7732-8888 (10:00～19:00)  
主催 関西テレビ放送/サンライズプロモーション大阪  
後援 FM802

# Outline

## 【東京公演】

公演日程 2011年9月5日(月)～10月10日(月・祝)

会場 青山劇場

チケット発売日 2011年7月23日(土) 10:00am

チケット料金 S席¥12,500/A席¥10,500(全席指定・税込)

### 公演スケジュール【全45回公演】

★9/29公演の客席内に収録用のカメラが入る予定です。

9月	5月	6火	7水	8木	9金	10土	11日	12月	13火	14水	15木	16金	17土	18日	19祝	20火	21水	22木	23金
12:30		休		☠		☠	☠	休	☠	☠	☠		☠	☠	休	☠	☠	☠	
18:00	☠	演	☠	☠	☠	☠		演	☠		☠	☠	☠		演	☠		☠	☠
9月	24土	25日	26月	27火	28水	29木	30金	10月	1土	2日	3月	4火	5水	6木	7金	8土	9日	10祝	
12:30	☠	☠	休	☠	☠	☠			☠	☠	休	☠	☠	☠		☠	☠	☠	
18:00	☠		演	☠		☠	☠		☠		演	☠		☠	☠	☠			

プレイガイド サンライズオンライン <http://sunrisetokyo.com> [パソコン・携帯]  
 チケットぴあ <http://pia.jp/t/dokuro2011/> [パソコン・携帯]  
 【7/23のみ】0570-02-9920  
 【7/24以降】0570-02-9999[Pコード:412-562]  
 イープラス <http://eplus.jp/dokuro2011/> [パソコン・携帯]  
 ローソンチケット <http://1-tike.com/dokuro2011/> [パソコン・携帯]  
 【7/23のみ】0570-084-635  
 【7/24以降】0570-000-407/0570-084-003[Lコード:33301]  
 CNプレイガイド <http://www.cnplayguide.com/dokuro2011/> [パソコン・携帯]  
 【7/23のみ】0570-08-9911  
 【7/24以降】0570-08-9999

お問合せ サンライズプロモーション東京 0570-00-3337 (10:00～19:00)

## Staff

作 演出	中島かずき いのうえひでのり
美術 照明 衣裳 音楽 音響 音効 殺陣指導 アクション監督 ヘア&メイク 小道具 特殊効果 映像 大道具 音楽部 演出助手 舞台監督	堀尾幸男 原田 保 小峰リリー 竹田団吾 岡崎 司 井上哲司 未谷あずさ 大木裕介 田尻茂一 川原正嗣 前田 悟 川原正嗣 宮内宏明 高橋岳蔵 南 義明 上田大樹 俳優座劇場舞台美術部 右近健一 山崎総司 芳谷 研
宣伝美術 宣伝写真 宣伝衣裳 宣伝ヘア 宣伝メイク 宣伝小道具 宣伝・公式サイト制作運営 制作協力	河野真一 野波 浩 小峰リリー 竹田団吾 宮内宏明 内田百合香 高橋岳蔵 ディップス・プラネット サンライズプロモーション東京（東京公演）
票券&広報 制作助手 制作補 制作デスク	脇本好美（ヴィレッヂ） 市瀬玉子 山岡まゆみ 辻 未央（ヴィレッヂ） 小池映子（ヴィレッヂ）
制作 エグゼクティブプロデューサー	柴原智子（ヴィレッヂ） 細川展裕（ヴィレッヂ）
企画製作	劇団☆新感線 ヴィレッヂ
主催	関西テレビ放送 サンライズプロモーション大阪（大阪公演） ヴィレッヂ（東京公演）
後援	FM802（大阪公演）